

# 学期末レポート

～有恒高校紹介～



深石真佑

2022.12～2023.1

# 有恒高校の歴史

県立有恒高校は、元々私立の高校でした。1896年（明治29年）に私財を投じて当時29歳だった増村朴齋先生によって、独力で創立しました。

かつては『西の松下村塾、東の有恒学舎』とも呼ばれており、朴齋先生の教えは今でもこの有恒高校に受け継がれています。有恒学舎創立の時に元幕臣の勝海舟が校名を書き送りました。有恒高校の歴史は、今年で126年になります。（Wikipedia参考）



## ～増村朴齋先生について～

1868年（明治元年）、針村（現板倉区針）に父である度弘と母であるちくの次男に生まれました。朴齋先生は針小学校入学後、8歳で諏訪神社大幟（大幟とは神様が降りてくるための目印）の文字を書き、11歳で漢詩を作るなど村民から、『神童』（非常に優れた才能を持つ子供）と称されていました。そして、2回ほど上京してたくさんのごことを学び、有恒学舎教育の支柱となる『先公』など有恒精神である『三綱領』として受け継がれています。上京を経て1895年（明治28年）新潟県から

有恒学舎設立認可を受けて開校しました。設立後は、全国から力のある教師を招きました。1921年（大正10年）新潟県教育会長、中頸城郡教育会長などに就任して教育に尽力を尽くしました。1942年（昭和17年）74歳で亡くなりましたが、1964年（昭和39年）に県立有恒高等学校になりました。（上越市ホームページ、Wikipedia参考）

# 三綱領・五学規について

有恒高校といたら『三綱領・五学規』このことについて改めて内容を整理をします。有恒高校が目指す生徒像は『三綱領・五学規』の精神を持って授業や行事などに全力で取り組むことのできる生徒だと考えています。増村朴齋先生が建学の精神（私学の創立者が、学校創設にあつたってどのような人材を育成したいのかなどの理念や気概、願いをうたいあげたもの）に基づき、1899年（明治32年）に五条の学規が制定されました。（五学規）学問の第一義である日常的規範を五学規として生徒に諭されたものです。また、日常的規範の根本となる道德綱領として『三綱領』を後に掲げられました。日々の生活を『五学規』に定め、そこに『三綱領』を据えたことによって有恒学舎の精神は不動なものになりました。これを目標にし、実践することにより永く輝かしい伝統が築かれます。この古くから伝わる教えをきちんと守り、日々新たな気持ちで残り少ない高校生活を送っていきたいと思います。

**校訓**

**三綱領**

- 一 君子は義に喰り小人は利に喰る。
- 一 人為さざるありて而る後に以て為すあるべし。
- 一 公を先にし私を後にす。

**五学規**


- 一 志気充実にして操守堅固なるべし。
- 一 質朴剛毅の風を養い深く懦弱と軽薄とを戒むべし。
- 一 礼讓を重んじ虚飾の風を除くべし。
- 一 勤勉励精生徒たるの本分を尽すべし。
- 一 摂生に注意し身体の強健を図るべし。

**教育目標**

増村朴齋先生の建学の精神に則り、徳性を涵養し進んで社会に貢献する人材を育成する。

一、勤勉励精生徒たるの本分を尽すべし。  
「勤勉」とは仕事や勉強に一心に励むこと。「励精」とは精を出して励むこと。生徒は先生の指導に従って一生懸命学業に励め。

一、摂生に注意し身体の強健を図るべし。  
「摂生」とは衛生に注意し健康の増進を図ること。健康に注意し、健やかで丈夫な体をつくれ。



**伝統と誇りを実践するのは君だ！**  
**JUST DO IT !!**

# 有恒高校の今

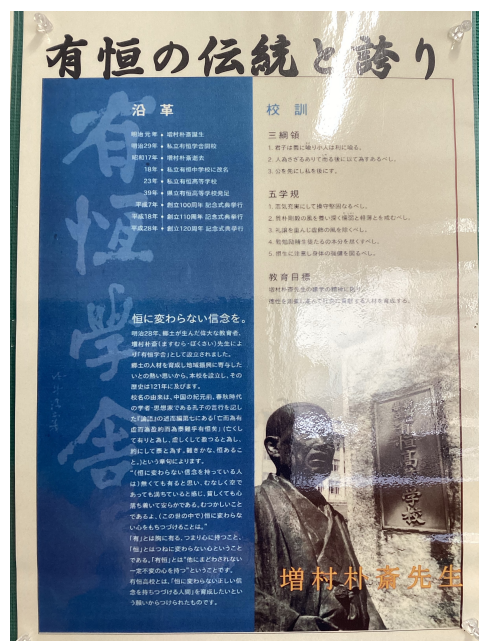
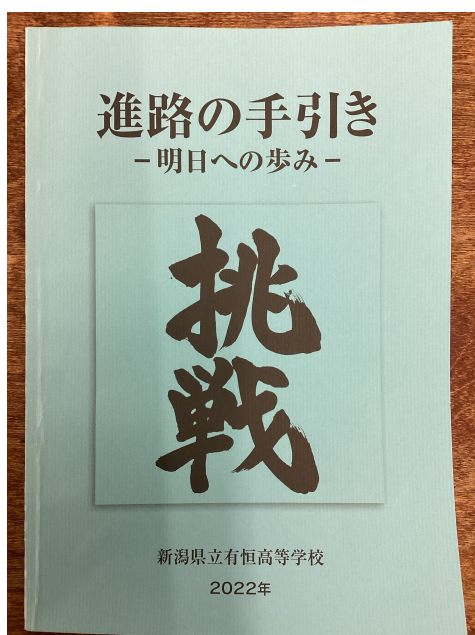
今の有恒高校は、昔のように生徒の人数が多くなく少人数制の学校となっています。15人～25人くらいの生徒がクラスに集まって授業をしています。少人数なので、大きい学校に比べてできることが限られてしまうことが多いですが、人数が少ないが故にいいところがあります。例えば、先生と生徒の距離が近いことです。常に先生の目が行き届いているので安心して学校生活を送ることができます。困っていたり、悩んでいたりとするとすぐ相談にのってくれます。また、先生だけでなく生徒同士の距離も近いので団結力があり、特に行事になると全力で取り組む生徒がたくさんいます。体育祭の時は、団長や副団長、応援リーダーを中心に全校生徒を引っ張って行ってくれました。なかなかまとまらず大変そうな時もありましたが、本番では最高のパフォーマンスができたのではないかと思います。文化祭の時は、クラス発表を何にするかを決めることから手こずってしまい、決まった後もなかなか行動に移せない時間が長くどうなってしまうのだろうと焦りました。ですが、みんなと声をかけあってなんとか本番に間に合わせることができました。その頑張りが実ったのか、銀賞をいただくことができました。

高校3年間過ごしてきて、改めて『三綱領・五学規』の精神を持って生活している生徒が多いと感じました。3年生はもちろん、1、2年生も周りの人と協力してきちんと授業や行事に取り組んでいると思います。この『三綱領・五学規』の精神をこれからも後輩たちに受け継いでいって欲しいです。

3年生は高校を卒業し、次のステップに進みます。学校に行く日数も少なくなってきました。残り少ない高校生活の中で悔いのないように1日1日を大切に、噛み締めながら生活していきたいと思います。また、高校卒業したら社会人になるので社会人になるにあたっての勉強や心構えも高校生のうちにやっておきたいです。

# 有恒高校に入ってよかったこと

私が有恒高校に入ってよかったことは2つあります。1つ目は、少人数なので授業に集中して取り組める環境が整っている所です。先生によって授業スタイルが違って飽きずに、楽しく授業を受けることができます。例えば、4人チームで1つの課題をしますが、わからないところをお互いに教え合って全員がその内容を理解するといったグループワークがあります。私は、1、2年生の時に経験しました。正直、始めはあまり乗り気ではなく心配でした。なぜかというところグループで何かをすることや人と関わるのが苦手だったからです。ですが、取り組んでいくうちにだんだん慣れてきて困っている人に積極的に声をかけられるようになりました。今まで逃げてきたことを高校で克服できました。2つ目は、進路学習について、先生方の指導が熱心な所です。私はもともと就職志望でした。どの企業に入りたいのかははっきりしていなかった時期があって路頭に迷っていました。そんな時に先生が声をかけてくださり、色々な事業所を教えてくださいました。また、進路学習がとても活発で外部の方を招き、お話を聞くイベントが多く私達にとってのためになるような話をたくさん聞くことができました。そのおかげで自分が本当に就職したい所を応募することができました。



# 有恒高校の進路活動

有恒高校の進路活動は、先生も生徒もとても熱心に取り組んでいると1年間通してそう感じています。私は、就職希望者として活動してきました。就職といってもどこに就職したいのか、どんな仕事をしたいのかわからないままずっと過ごしていました。そのため、3年生になって就職場所を決める際にとっても時間がかかってしまい大変でした。1年生の時から成績を安定させて、欠席なしであればなんとかなるだろうといった浅はかな考えでいたので今になって後悔しています。それでもなんとか応募先を決めて試験に向けて準備し始めました。

私が特に力を入れたのは、面接練習です。とても苦手意識があり、実際にやってみても納得のいく答え方ができずに先生にも私の答えに対して「違う」と何度も言われていました。ここがよかったなどという言葉があまりなく、どうすればいいかわからなくなり、終いにはどこにも就職できないのではないかとまで思うようになりました。ですが、今まで学校生活を通して培ってきたことや頑張ってきたことを思い出して自分自身を奮い立たせました。そして、本番では納得いくような受け答えができ、筆記の方もきちんとでき、内定をいただくことができました。

この進路活動を通して、これから就職活動する人たちに伝えたいことは2つあります。一つ目は、当たり前な事を当たり前に行えるようにすることです。企業の方々は細かい所までよくみています。特に身だしなみが崩れている人がたくさん見受けられるので今からきちんと直しておいた方がいいと思います。二つ目は、今にしかできないことを全力で取り組むことです。社会人になると高校の時のように行事もないし、授業を受けるということも無くなります。学校生活で経験することは貴重なもので時間を大切に過ごしてほしいです。また、高校生活で学んできたことを就職試験で自慢できるようにしておくといいです。そうすると、面接練習でとても役に立ちます。後輩の皆さん、頑張ってください。

